

令和5年度 江戸川区立第四葛西小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かに育つ四葛西っ子 ・元気な子 ・やさしい子 ・よく考える子 ・やりぬく子 	<ul style="list-style-type: none"> 目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭・地域に開き、共に歩む学校 ○友達と共に学級、学年、学校の文化を創り、発展させていく児童 ○組織的に教育活動を推進しつつ、自らの向上を図る教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果>江戸川区教育課題実践推進校として教科担任制の効果的な運用について研究した。学習指導要領の理念に基づき、授業改善に取り組みことで、教師の授業力向上を図ることができた。研究発表会では、区内から多くの参観者があり、本校の先進的な取組を還元することができた。また、学校教育目標や学校経営方針の具現化をめざし、校務分掌組織を見直し、全教職員で推進した。</p> <p><課題>引き続き、児童の実態および教育的課題を的確に把握し、学習指導要領を踏まえて具体的な活動を設定していく必要がある。</p>		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価	年度末に向けた改善策	
				取組	成果			成果と課題
学級の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実 ・教科担任制の効果的な運用 ・一人1台端末を活用した授業の改善 	C層児童の基礎基本の定着と基礎的な学力の向上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学力調査での結果 ○校内研究を中心とした授業改善 ○東京・ネット外刊の活用 ○第2～6学年の放課後補習教室(算数1)の実施 ○スタディーワークでのADリドルの活用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○公開日には児童の目録様子を参観できた。落ち着いて学習していた。 ○タブレットを活用した授業が行われていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の推進による、日々の授業改善(教科担任制、一人1台端末等)
	<読書の読者の更なる充実> ・環境を整えて読書意欲を向上させ、読書の習慣化を図るとともに、豊かな心情と幅広い知識を身に付けさせる。 ・学校図書館の活用を通して、探究的な学習の実施・充実を図り、より深く追究しようとする生涯学習の基盤となる能力を培う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程全体を通して、計画的な朝読書や読書活動の推進を図る。 ・本の貸し出しや読書館数冊の当番、委員会活動期間に作成したポスターによるおやすみの紹介、読書月間や全校集会での読書の呼びかけなどの、読書推進活動を行う。 ・「読書カード」や「読書発見」を活用し、資料の収集の仕方や記録の取方の指導、自己の考えを表現する方法の指導を行う。 ・情報活用能力の育成や授業の充実を図るため、各教科・領域の学習での学校図書館や地域図書館の活用を推進する。 ・学校に於いては利用指導により、望ましい読書習慣の態度や技術を高める。 ・江戸川区蔵書管理システムの開始に伴い、スムーズな運用が行われるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科とも関連した探究的な学習の実施のため、読書科のうち12時間の配当時間を計画的に活用できるように、4月のうちに学年で年間指導計画を確認する。 ・週3回15分の朝読書を設定し、読書の習慣化と落ち着いた雰囲気醸成を図る。 ・児童の委員会活動では、毎日の貸出活動のほか、学期に1回の全校への呼びかけを行う。 ・「読書カード」の活用に向けて、図書担当から本区へ初めて勤務する教員へ1学期中にガイダンスを行う。 ・年間50冊以上の本を読むことをめざし、学級文庫の学年間での入れ替えを2ヵ月に1度程度行う。 ・10月に予定されている蔵書管理システムの開始後は、記録を自己の「読書記録」と連携して活用できるような指導を工夫し、年度内に方針の構築をする。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○朝読書の時間を確保 ○保護者による朝の読み聞かせ ○江戸川区蔵書管理システム導入に向けた計画的な準備・研修 ○読書科研修会での学びの共有 ○児童の委員会活動の工夫、校内掲示物の作成 ●蔵書整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○読書の活動は継続していくべき。 ○読み聞かせなども続けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸川区蔵書管理システムの運用と教職員の共通理解 ・保護者ボランティアとの連携 ・読書科研修を生かし、来年度の読書科に関する各学年の具体的な学習内容の検討
	<外国語教育の推進> ・授業力の向上とALTの効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語専科の配置、イングリッシュウィークの設定 ・ALTとの授業・・・外国語(年間70h)、外国語活動(年間35h) 	児童の基礎的な学力の向上とコミュニケーション能力の向上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTとの連携による授業展開 ●活動のバリエーション 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しく学習し、英語に親しんでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イングリッシュウィークの確実な実施
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間の全校運動遊び週1回 ・体力テストの実施 	集団運動遊びの取り組み 体力テスト結果の向上	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○体育朝会での運動時間の確保、内容の工夫 ○教員の実技研修、伝達講習 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の機会をますます増やし、健康で元気な子供に育ててほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた、体育朝会の充実
	<特別支援教育の推進> ・エンカレッジデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副職交流、交流及び共同学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・支援委員会 毎月 ・特別支援研修会実施 	実施回数および研修会への参加	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○SC、SSW、巡回心理士による個別支援 ○巡回指導教員との情報共有 ○エンカレッジルーム活用状況の視覚化 ○副職交流の計画的な実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ダイバーシティの視点を全校児童に広めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童理解を高めるための研修 ・巡回指導教員との連携
共生社会の実現に向けた教育の推進	<たんぼほり学級との連携> ・弱視学級と連携した指導の充実と弱視教育への理解	<ul style="list-style-type: none"> ・弱視障害理解教育実施(第3学年) 	在籍児童への理解向上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な学習環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体を通しての障害理解教育
	<子どもたちの健全育成> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-Qの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実、研修会の実施 学期1回 ・スクールソーシャルワーカー、生活指導連絡協議会の活用 	実施回数および研修会への参加	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶の励行、見守りの強化 ○登下校パトロールの実施 ○SC、SSWとの連携 ○生活指導主任からの伝達講習 ○hyper-Q結果の活用(個別支援) 	<ul style="list-style-type: none"> ○SNSの問題は重要であり、児童への啓発を続けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な対応力の向上のための研修 ・教員間で情報共有と支援体制の構築
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<各校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の教育活動や学校行事の様子を、「学校日記」に写真と共に掲載し発信 ・保護者に学校公開(年間3回)、運動会や展覧会の公開 	学校日記掲載回数 公開等の実施回数	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会、学校公開でのアンケートを受けて、次年度につなげる改善策の検討 ○HPの記事掲載、tetoruでの情報発信 ●HP内容の更新、整理 	<ul style="list-style-type: none"> ○継続した情報発信を望む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HP更新作業の分担、確認 ・学校公開でのPTAへの協力依頼
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員を交え、学校関係者評価報告書を活用した教育活動の改善・充実に向けた協議の実施 	協議の実施時期の設定	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評議委員会の開催 ○児童の学習状況の視察 	<ul style="list-style-type: none"> ○機会あるごとに学校に伺い、児童の活動の姿を知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な委員会開催による、学校状況の理解推進
	<地域連携教育の推進> ・地域を愛する心、伝統を受け継ぐ心をもった「えどがわ大好き」な児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・海苔すき体験(第3学年) ・米づくり等の体験(第5学年) 	学年の総合的な学習の時間	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○田植え、稲刈り体験による児童の学びの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ後の連携の在り方については、地域でも模索中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協力者との更なる連携
特色ある教育の展開	<グリーンアドベンチャー> ・様々な樹木とのかかわりを通しての異学年集団交流	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年集団・・・年間5回 ・学年・・・年間2回 	異学年交流による活動	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○グリーンアドベンチャー週間の設定による継続的な活動 ○異学年集団での教えあい、関わり合いの深まり 	<ul style="list-style-type: none"> ○よい活動である。楽しかったという感想も聞かれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木の剪定や管理の充実化
	<教科担任制の更なる充実> ・本校の教科担任制の取組の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ・外部への積極的な発信 		A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○他区校長会の視察 ○区内研修会での情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ○継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの積極的な発信